

科目名	社会学特講		担当教員	平林 豊樹	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3SSE403
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	反転授業				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	テーマは、「19世紀以降のメディア」です。19世紀以降、グローバル化が加速度的に進行する現代に至るまで、メディアがどのように社会に影響を与え社会によって構築されて来たのか。これを明らかにします。「メディアは今後の社会の中でどのような存在して行くのか」という問題に関して受講生が説明出来るようになるのが、目標です。				
授業の概要	社会科学の基礎的な理論と概念を紹介し、上記のテーマについて考えます。殆ど毎回、授業内容に関する作文を課します。映像資料を見る可能性があります。反転授業を実施します。定期試験期間に試験をせず、第15回は実質的な期末のテストと心得てください。授業第1回で授業の仕方その他を説明しますので、授業第1回に必ず出席しましょう（それ以外の回では説明しません）。				

授業計画	
第1回	ガイダンス～授業の仕方について
第2回	メディア論に関する基礎的な概念～メディアとは何かを理解し、メディアを理解する為の概念を知る。
第3回	19世紀のメディア～電気製品の爆発的な開発と普及という背景から、19世紀のメディアを理解する。
第4回	20世紀のメディア（1）～無線技術の開発以降のメディアの展開を、米国を事例として考察する。
第5回	20世紀のメディア（2）～新聞とTVとに代表されるマス・メディアの展開を、日本を事例として考察する。
第6回	21世紀のメディア～デジタル情報化の進展に就いて考察する。
第7回	メディア論の理論～メディア論の様々な理論を理解する。
第8回	メディア・リテラシー～その意味と目的
第9回	マス・メディアと市民との関係～マス・メディアと資本集中、情報の送り手と受け手、といった観点から考察する。
第10回	モバイル・メディアと身体との関係～モバイル・メディアは人間関係や人間の身体にどう影響しそれらからどう影響されるのか。
第11回	グローバルとローカル～メディアを介したコミュニケーションがグローバルな次元とローカルな次元とでどのように現れるのか。
第12回	21世紀のメディア社会の展望～今後のメディアとメディア社会との展開を予想する。
第13回	映像資料の鑑賞～グローバル資本主義の具体例を知る
第14回	映像資料の鑑賞～具体例から資本主義の悪弊を理解する
第15回	まとめ～学生に質問し筆記で回答させる（実質的には期末のテストに相当する）。

事前学修	2時間	授業の各回で次回の予告をするので、それに基づいて準備しなさい。
事後学修	2時間	ハンドアウトとノートとを見直しておきなさい。
フィードバックの方法	教員は、授業時間内で学生に書かせる作文に目を通して学生の授業理解度を知り、それを授業の進め方に反映することがあり得ます。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	レポート、授業中の課題作文によって、学生の授業理解度を確認します。
上記以外の試験・平常点評価	90%	授業第15回の結果が、成績段階を決定します。成績評価方法は、授業第1回で説明します。
定期試験	0%	定期試験期間には試験をしません

補足事項	教科書：指定しません。授業中に、必要に応じて、参考文献、インターネット・サイト、その他を紹介します。
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定しない	無し	無し	無し	無し
参考資料	レポートなどの課題を提示することがあります（提示時期は未定）。この学校の学習支援インターネット・サイトの「教材」欄にハンドアウト等を掲載します（第1～3回迄の間に）。			